

202404 口語詩句 4月 龍 秀美

<総評>

ひと月の投稿数が一人 7 作に制限されることによって、選考委員の選ぶ佳作に共通作品が多くなりました。口語詩句が、異種ジャンル間の美意識の違いを乗り越えて、共通のポエジーを見出しているのかも知れません。今後、この現象は分析の必要があるでしょう。

その結果、ベテラン投稿者で、ある程度スタイルを確立している人の作品が多く選出されていますが、素質のある新人を発見して取り上げるのにも、できるだけ注力するように心掛けております。

生まれる直前の
逆に一人欠けているような

長谷川栄香 宮城県

——既に有るとして期待されているものは、その期待の大きさのゆえに、現在の欠落感をかもしだすこともあるのだろう。

復讐に少し足りない円周率

まちりこ 埼玉県

——遂に終わることのない数値の連なり。納得することができないものが、この世界にはあるという発見。

さんずいの
ように
途切れたちんもくへ
きみは母音のといきをもらす

さいう 石川県

——連なっているようにも、途切れているようにも見える「さんずい」。それは人の意識の恣意性によるもので、他人は立ち入ることができず、ただ吐息を漏らすだけ。新しい感性が光る。

さくらばな、ほどの
微熱を
きょうこつに

かかえて蛹化する ひるさがり

さいう 石川県

——「桜」と「胸骨」と「蛹化」との三者の絶妙な取り合わせが作る言語世界。作者はひとつ抜け出したように思う。

迫り来る飛行機の喉松林

李いう子 佐賀県

——確かに飛行機は「喉」で迫ってくる。松林との取り合わせが迫力を生んだ。

洗い物は言い訳しながら
水やりはあやまりながら

いまはじまるの 兵庫県

——器物や植物に対するとき、私たちは思わず知らずこういう態度を取っている。それは愛情か、感謝か。

通過する
私のやばんを見抜け、
彗星。

こはくいろ 大阪府

——あらゆるものを見抜けし、己の軌道のみを走り抜ける彗星と競う自我。若さの勢いを感じさせる作品。

ゆーとぴあそんな程度の学歴で

マズルカ

山口県 21歳 2024年4月2日 00:01

——今や大学卒だけでは「学歴が無い」というそうだ。「そんな程度」でいけるのはどんな「ゆーとぴあ」か、現代社会の一面を想像させられる。

たった今
指紋認証した人の
肩に桜の花びら一つ

和泉次郎 新潟県

——指紋という身体のごく一部がその人を代表する世界。そのとき、肩に散りかかる花びらはその人のなんだろう。

嘔下排泄婚姻生殖死

くちばっちは簡単に

越えていたのに

汐見りら 東京都

——リズムと語呂の面白さ。

比較的歩きたくない千歳飴

太代 祐一 神奈川県

——慣れない衣装で緊張しながら一生懸命に歩く七五三の子どもの可愛さ。

「比較的」という語句がぎこちない子どもの動きを伝えて秀逸。

捨てられない

片方だけのイヤリングみたいに

自分を大事にしている

高松 瞳 東京都

——片方では役に立たないのがイヤリング。分かっているのに捨てられない。自分というのはちょうどそれくらいの位置にあるという。新鮮な比喩。

死んだことある人は水っぽく笑う

一周、太陽から遠いので

雲理そら 大阪府

——人は死んだらどこへ行くのだろう。水の惑星から遠く離れて。切ない幻想。

両の手を器に桜、受け取って

あの世の底を日だまりにする

常田 瑛子 山口県

——冥界はきっと暗く満んだ日陰だろう。せめて掌に掬った花びらが日溜まりにしてくれたら。散る花びらにあの世を見る想像力。

気分だけラクダのまつげ春疾風

洋梨 またら 群馬県

——ラクダのまつ毛は砂嵐を避けるため驚くほど長いという。春の嵐にマスカラを念入りにしてみる。ラクダと共生している気分。目の付け所の面白さ。

猫の毛が付かなくなった

リビングで

スーツを着ても寂しいもんだ

TENNISCLUB 東京都

——ペットロスといわれるが傷跡は深い。傷跡はスーツという社会的服装にもまつわりついて離れてくれない。

命って形で揺れる干した鳥賊

小里京子 北海道

——漢字のかたちから連想も、全身を開け広げにしているところも、まさに命。それを私たちは嬉しく食べる。

殺ったのはケーキ

だけど

ナイフはケーキをかばう

それがユートピアだから

しろとくろ 千葉県

——加害者になりそうもないケーキがナイフを殺ったという。それでユートピアが丸く納まる。被害者も加害者もその役割を果たすのがユートピアであれば。役割が壊れる未来はディストピアかも。発想の特異さ。